


グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国		首都	ロンドン
 <p>3つの神様の十字架を組み合わせてできている。イングランドの聖ジョージ（白地に赤十字）、スコットランドの聖アンドリュース（青地に白の斜めの十字）、アイルランドの聖パトリック（白地に赤の斜め）が加わり、ユニオンジャックと呼ばれる。ジャックとは船首に掲げる旗のこと。</p> <p>独立：1066/10/14 ノルマン王朝成立 国連加盟：1945/10/24 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 24万3,000 km <sup>2</sup> （本州の1.07倍） グレートブリテン島とアイルランド島北部、それに周辺の島嶼とからなる。グレートブリテン島は北部にカレドニア山脈、中央にペニン山脈、西部にカンブリア山脈があるが、いずれも古期造山帯のもので、低くなだらかである。南部の一部を除き、広く氷食を受け、スコットランド西岸には、フィヨルドが多い。平野は東部にみられる程度で、高原と丘陵地帯が支配的である。
		人口	5,970万人
		言語	英語（公用語）、ウェールズ語、スコットランド語
		通貨	英ポンド
		気候	高緯度でありながら偏西風とメキシコ湾流の影響で、冬暖夏涼の西岸海洋性気候を示す。年間を通じて降雨があるが、大半は霧雨状で量は多くない。冬の風のない日には霧が発生しやすい。
		民族	アングロサクソン人 94%、ケルト族
		宗教	英国国教会 48%、カトリック 16%、イスラム教 1.7%、長老派教会、メソジスト、シーク教、ヒンズー教、ユダヤ教
教育 制 度 の 概 要	学校体系	・6・5・2・3(4)制をとっている。スコットランドでは7・4・2・4制である。	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリースクール（5歳～11歳）、セカンダリースクール（11歳～16歳）の11年間の義務教育である。</li> <li>・その年の8月31日までに満5歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。</li> <li>・日本の義務教育と異なり、必ずしも学校という機関に就学させる義務はない。</li> <li>・公立学校の学費は無償である。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は9月1日より翌年の8月31日である。</li> <li>・3学期制を採っており、1学期は9月1日～12月31日、2学期は1月1日～4月上旬、3学期は4月上旬～8月31日となっている。（年度、地域によって日程は若干異なる）</li> <li>・全国共通のナショナルカリキュラムで実施され、数学、英</li> </ul>	

	<p>語、理科、歴史、地理、技術、情報技術、音楽、芸術、体育、現代外国語、市民教育の12科目が必修となっている。14歳以上では、いくつもある教科の中から、好きな教科を選んで受けることができる。環境学や演劇、ダンスなどの科目を設けているところも多くある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校は基本的にナショナルカリキュラムの束縛を受けないが、多くの学校では、学校独自の特性を生かしながらもかなりの部分で同カリキュラムを導入している。</li> </ul>
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンダリースクールの生徒は学年が終わるたびに試験を受け、16歳で義務教育を修了するとGCSE(義務教育修了試験)という試験を受ける。</li> <li>・大学に進学するためにはこの試験で高い成績をとることが必要で、大学進学希望者は17歳から2年間の受験コースで2～4科目に絞って勉強する。</li> <li>・終了後にGCE・Aレベルという大学入学資格試験を受け、その結果を希望大学に提出することとしている。</li> <li>・これら試験は、きわめて重要な社会的な資格となっており、これら試験に合格していなければ、学校を卒業してもその価値はないに等しいといわれている。</li> </ul>
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無償の就学前教育制度が確立しており、ナーサリー・スクール(2歳～5歳未満)、インファント・スクール(4歳～7歳)、これに併設されたナーサリー・クラス(3歳～5歳未満)がある。ここでは有料だが給食が実施されている。弁当を持参してもよい。遠足も実費がかかる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックスクールとは「公立」という意味ではなく、かつて裕福な階層の子どもたちが受けていた家庭教師による「プライベート」教育に対する「パブリック」で、近年のパブリックスクールは、真の国際人として活躍できる総合能力を備えた人材を多く生み出すことのできる教育機関として高い評価を得ている。</li> <li>・教育界ではさまざまな教育改革が行われている。例えば、英語以外の言語をセカンダリースクールの教科を加えたり、学校の国際化を進めたりしている。</li> </ul>
休業期間	
学級担任制、 教科担任制等	

学 校 生 活	飛び級、落第の有無	
	教育内容の差異	・ 課外活動も盛んで、サッカー、クリケット、乗馬、ラクロスなど、イギリスならではのスポーツをはじめ、ボランティア活動をしている生徒も多い。
	学校行事の特徴	
	給食	・ 給食がある学校が多いが、有料である。寮制でない場合には保護者の判断によって弁当を持参することも認められている。 ・ 民間の給食会社が子どもたちに学校給食を提供しているが、学校によって給食費がまちまちで、利用する子ども、昼食を持参する子ども、昼食時一時帰宅する子どもがいる。 ・ 献立としては、じゃがいもとチーズの割合が多く、ベークドポテトやシチュー等が人気である。
	チャイムや号令	
	教室における行動様式等の違い	・ 授業は 1 クラス 10～20 人程度の少人数制で、生徒同士の活発な意見交換などを中心に進められる。
	校則	・ 耳にひとつのピアス、ネックレスは認められている。 ・ 指輪はだめである。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	
	子どもの一日	・ 放課後は友達同士で集まり、おしゃべりをして過ごす生徒が多い。
生 活 習 慣 等	言葉の指導面の留意事項	・ 地域によって、言葉が少し違う。ロンドン市内にも「コクニー」と呼ばれる方言がある。 ・ 日本語の学習では、「ウ」の発音が巻き舌になってしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	
	食生活	・ ソーセージがよく食べられ、生のものを焼いて食べる。
	衣服住居の違い	
	交通規則の違い	
その他		

<参考資料>

- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省

- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・イギリスの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・・・アルク
- ・かわさき教育だより 社会科見学「世界の給食」・・・・・・・・川崎市教育委員会
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI